

# ノーサイド

北原 巖 男

令和初の3月。

卒業式やさまざまな人生の節目のとき。親しくなった友人とも別れのときです。

間もなく卒業式を迎える高校生達の卒業文集が届きました。(公益財団法人古岡奨学会第38期生・文集「奨学」)

目に留まった同じ「わが友」と題する二人の生徒の一文(抜粋)。

Aさん「私は高校三年間で学んだことがあります。

それは「自身の挑戦の中」には必ず「友人の励まし」

があるということです。彼

らのおかげで自分に自信を持って、「自分らしさ」を認

めることができました。このことから人は友人がいる

ことで挑戦しようと思えるのだと思います。この学び

から私は決意したことがあ

ります。それはどんなときも「目の前の一人を大切に

する」ということです。リ

ーダーとは前に立って皆を引く張ること以上に、どこ

までも一対一の関係を築いて、一人一人をきめ細やかに

励ましていける人だと思います。」

Bさん「沢山の友人に囲まれるのは幸せなことかも

しれません。しかし、友人

が少ないからといって不幸

だということも決してない

と思います。私は、気を遣

わずに何でも話し合える親友という存在

がたった一人いるだけ

で幸せだと感じられました。出会って

くれてありがとうございます。心から伝えたいで

す。」

18歳の二人の高校生と僕との間に在る

大きな年齢差や人生経験・社会経験など

の違い。それらを超越する何かが胸に迫

って参りました。そんなとき、地元の長野

Today is the beginning of

our beautiful friendship!

に会おう。新幹線で、JR

で、車で、各地から彼の家に駆け付けたクラスメート

は11名。飲み物食べ物は持

ち寄り。自家産の世

界一大きいクルミや「うえだみどり大

根」、野沢菜の漬物、佃煮や煮物、シメは

握りの絶品手打ち蕎

麦。

高校卒業後、My

wayを突き進んでいったクラスメ

ート。いつも心配し励まし続けてくれました。

た。何の遠慮もなく、いつも耳の痛いことを

言われっ放し。あを脱いでいる自分を実感する機会となりました。

去る2月11日に亡くなら

い。」

そして出会いについて

は、こうも述べています。

「縁を大切にすると、

人生はより豊かになる。」

今まさに旅立ちを迎える皆さん、友達と離れ離

れになろうとしている皆

さんに贈りたいと思いま

す。映画「カサブランカ」

の中のセリフですが、彼

・彼女にあなたの口から

直接伝えてください。

“Today is the beginning of our beautiful friendship!”

北原 巖男(きたはらい わお) 元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現(一社)日本東ティモール協会会長。(公社)隊友会理事